

農福連携
シンポジウム

農業における

【アクセシビリティ】

/ 未来の担い手のための技術開発

2025.7.9.WED. 13:30
17:00

会場定員 100 名 / WEB 配信あり / 要予約 / 参加費無料

大阪公立大学
文化交流センター
(梅田第2ビル6階)

プログラム

第1部

講演1

【画像認識に基づく障がい児 農業キャリア教育支援アプリの開発】

内海ゆづ子 / 三輪由佳 (大阪公立大学 准教授 /
大阪府立環境農林水産総合研究所 主任研究員)

【障がいのある生徒の「わかる」と 「できる」の実現に求められること ～ブドウ栽培を通じた取り組みから～】

小海輝勝 (大阪府立西浦支援学校 首席)

第2部

講演2

【未来の担い手のための 農作業支援ソリューション】

小西充洋 氏 (ヤンマーホールディングス株式会社
中央研究所 バイオイノベーションセンター 部長)

【高床式砂栽培を 用いた農福連携の実現】

小倉久弥 氏 (東レ建設株式会社 トレファーム
事業推進室 室長)

第3部

パネルディスカッション

【多様な農業の担い手に 向けた技術開発の在り方について】

横井修司 × 豊原憲子 (モデレータ、大阪公立大学
教授 / 大阪府立環境農林水産総合研究所 部長)

内海ゆづ子 × 三輪由佳 × 小海輝勝 × 小西充洋氏
× 小倉久弥氏



予約申込みはこちら →

<https://forms.gle/ekZ45k34RkWLsLXe8>

(申込み締切 7月7日月曜日まで)

農業における

【アクセシビリティ】

/ 未来の担い手のための技術開発



シンポジウムテーマについて

障がいのある児童生徒にとって、農業はやりがいのある学びの場となることが多く、働く場としての期待も高い一方で、高品質な農産物生産には複雑で高度な技術が求められます。農業キャリア教育において、彼らの「わかる」と「できる」を育て技術習得を促すため、農業におけるアクセシビリティにかかる研究、技術開発について、現状と将来に向けた取り組みを紹介します。パネルディスカッションでは、農福連携の視点から、目指すべき農業の将来像を議論します。

農業における「アクセシビリティ」とは

障がいのある人々が農業分野で働く上での障壁を取り除くための取り組みです。農作業に適したツールの開発、農場のインフラ整備、研修プログラムの提供などが含まれます。具体的には、以下のような側面が考えられます。

- 物理的なアクセス：農場内の移動のしやすさ、農機具や設備の操作性。
- 情報へのアクセス：農業に関する情報や研修プログラムが、さまざまな形式で提供されること。
- 雇用機会：障がいのある人が能力を発揮できるような多様な職務や働き方が提供されること。
- 技術支援：障がいのある人が農作業を行う上で必要な技術や道具に関する支援。

これらの取り組みは、障がいのある人の自立を支援するだけでなく、農業分野における多様性を高め、労働力不足の解消にもつながる可能性があります。

本シンポジウムは日本生命財団児童・少年の健全育成助成（研究助成）を受けて開催します。

共催

- ・大阪公立大学
- ・（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
- ・大阪府立西浦支援学校

後援

- ・大阪府
- ・近畿農政局（申請中）
- ・JA 大阪中央会

アクセス

- 大阪公立大学文化交流センター（梅田第2ビル6階）
- ・JR 大阪駅から徒歩約7分
- ・地下鉄西梅田駅から徒歩5分

お問い合わせ

大阪公立大学 URA センター 担当：三宅
gr-knky-uracenter_n@omu.ac.jp

